



子ども虐待を減らしたい、予防したい

海陽町地域子育て支援センターあかね 幸谷 友子

BP1とBP2実践までのみちのり

私は、大阪府下の大規模小学校で養護教諭として32年間勤務しました。その間、多くの虐待ケースに直接関わってきました。本当につらかったです。「子ども虐待を早期に予防すれば、虐待を減らせるのではないか」の思いがどんどん強くなりネットワークを駆使し情報を収集しました。最初に出会ったのが、カナダで開発された親子支援プログラム「NP (Nobody's Perfect完璧な親なんていない)」でした。実施できないまま2009年に親の介護のため早期退職、徳島県海陽町に引っ越しました。同年「NPJ認定 NPファシリテーター」を取得し、海陽町でのNP実施を模索し続けました。

2010年、KKIが独自に制作した「親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた!” (BP1)」に出会い「これだ!」と思い、2011年に「BPファシリテーター養成講座」を受講しました。しかしその後、BPファシリテーター認定を取得するまでに7年もかかってしまいました。親の介護と、海陽町は出生数が少なく2~5か月児のファーストベビー5組の認定セッション実施が難しかったからです。でも諦めませんでした。子ども虐待を減らしたいから、虐待を早期に予防したいからトライし続けました。やっと2018年認定を取得し、本格的にBP1プログラムに取り組みました。

同年9月、KKIが「BP2プログラム(きょうだいがうまれた!)」を発表しました。少子化でファーストベビーが少なく、2人目以降の出生数が1人目より多い海陽町ではBP1よりBP2のほうが今後実施しやすいのではないかと。またまた「これだ!」と思い、2019年2月大阪であった「BP2ファシリテーター養成講座」を受講しました。同年10月「海陽町地域子育て支援センターあかね」が開所し、スタッフとして勤務することになりました。BPプログラム担当になり、子育て支援事業としてBP1・BP2プログラムを本格的にスタートさせました。しかし、その後コロナの感染拡大があり、BP1・BP2プログラムの実施がストップしてしまいました。2022年2月にやっとBP2ファシリテーターの認定を取得することができ、さあこれからです。

実施できる可能性を探求し続けて

海陽町でのBP2プログラムの実施はこれからですが、BP1プログラムは今までに12回(認定セッションを含む)実施できています。12回実施の背景には諦めずにトライし続けた取り組みがあります。その取り組みがあったからこそ今回のBP2プログラムの取り組みがスムーズにスタートできました。

海陽町の人口は8752人(2022年1月31日現在)。年間の出生数は31人(2020年)。少子化が進んでいます。

2011年からBP1プログラム実施に向けて取り組みました。関係する職種・組織に諦めずにアプローチし続けました。保健師さんはファーストベビーの情報を把握しており、新生児訪問や乳児健診時に「BP1プログラム」の紹介・参加呼びかけが可能。保健課は「こんにちは赤ちゃん事業」「乳児健診のフォロー」、福祉課は「虐待予防事業」、ファミサポは「子育て支援事業」、として新規事業で展開する可能性を探求し続けました。そして、やっと最終的に2019年10月に開所した「海陽町地域子育て支援センターあかね」で子育て支援事業として実施できることになりました。

2~5か月児5組以上の参加者を得るため、募集ちらし・パンフレットを携え、乳児健診・げんきひろば(親子の遊びひろば)、ブックススタート等、赤ちゃんが集まる場所に出向き積極的に募集を行いました。海陽町だけでなく近隣の3町にも出向き、担当の保健師さんにお会いし、BP1プログラムを説明し解説用のDVDを見てもらい協力を呼びかけました。その結果4町合同で参加者を募集し、会場を海陽町にして実施することが実現しました。しかし、それでも5組以上の参加を継続していくことは難しく、KKIのBP事務局に相談し了承を得て、募集の月齢を2~8か月にし、前期・後期合体で実施することになりました。そして2019年にやっとBP1プログラムを実施していく基盤ができあがりました。BPファシリテーターの私がキーパーソンになり、4町にまたがる保健師さんの「BPネットワーク」を構築し、連絡を取り合い、協働の取り組みができるようになりました。

BP2ならではのセッション

BP2プログラム実施に向けて、2019年2月に大阪で開催された「BP2ファシリテーター養成講座」を受講しました。特に印象に残ったのは、BP2プログラムならではのセッションです。

まず第2回セッション「子どもとの関わり方」で使う「問題解決アプローチ」です。NPでは「問題解決アプローチ」をよく使っていましたが、BP1プログラムでは使わなかったのが、久しぶりの体験でした。「子どもの困った行動」を「問題解決アプローチ」を使って考えると、子どもの「困った行動」が「困っている行動」としてとらえることができ、子どもへの対応が変わってくることに気づかされました。BP2プログラム参加者に子どもの行動を「問題解決アプローチ」に沿って考える習慣をつけてほしいと思いました。そして第3回セッション

「しつけ」と「体罰」です。子どもの「ピエロバランス」で「しつけ」を考えました。「しつけ」とは親が言う「…しなさい」「…するのよ」という「社会的要請を」子どもに受け入れさせること。わかりやすい！「しつけ」と「体罰」は無縁のもの。「しつけ」と「体罰」の違いを理解することができたセッションでした。

「BPネットワーク」が大活躍

養成講座受講後、コロナの感染拡大があり、直ぐにはBP2プログラムを実施することができず、やっと2021年11月に初めてのBP2プログラムを「海陽町地域子育て支援センターあかね」主催で実施できました。BP1プログラムで構築した「BPネットワーク」が活躍しました。コロナ感染拡大により子育て支援のイベントが中止になり、ファシリテーターがイベントに出向き、直接宣伝・募集ができませんでした。海陽町、近隣3町の保健師さんにBP2プログラムを説明してまわり、協力をお願いしました。その結果、保健師さんたちが、乳幼児健診時に対象者に直接声をかけてくれたり、郵送やダイレクトメールで募集チラシを送ってくれました。「海陽町地域子育て支援センターあかね」会員の対象者には来所時にスタッフが声掛けをしました。来所のない対象会員には募集チラシを郵送し、申し込み締め切りまでにファシリテーターが電話で参加を呼びかけました。その甲斐あって、何とか7組の参加者があり認定申請セッションとしてもクリアできました。

初めてやってみて一番感じたことは、参加者のお困り事がBP1プログラムと違うことでした。BP1プログラムは生まれてきたお子さんに関するものが多かったのですが、BP2プログラムでは、第2子として生まれてきた赤ちゃんのことでなく、幼児期の上のお子さんに関するお困り事がほとんどでした。それも予想以上に深刻でした。きょうだいが生まれたことにより、こんなにも上のお子さんとの関わり方でお困り事を抱え悩んでいる。自分を責めている。衝撃的であったと同時にBP2プログラムの必要性を実感しました。

突然机がガタガタ揺れ…

また参加者の安心・安全を常に意識し進行しているつもりでしたが、参加者の安心・安全対応ができていなかったと痛感したセッションがありました。それは5回目のセッションです。

10時開始の20分ほど前に地震が発生しました。まだ会場には参加者は到着しておらず、ちょうど準備中でした。受付の机がガタガタ揺れ、会場の建物も揺れ、立っておれません。「地震だ！さあどうしよう！」。暫くして、「津波の心配はありませんが引き続き余震に注意してください！」町一斉の放送があり、参加者の到着を待つことにしました。

開始10分前、一時保育の参加者が到着。「地震大丈夫でしたか？」と一番に声掛けをすると「車運転中だったので気がつかなかった」とのことでした。保育者と地

震・津波避難時の確認を口頭で簡単にすませ、保育のお子さんを連れて保育室に移動してもらいました。開始直前に、他の参加者がバタバタと到着。地震の被害確認をしました。「玄関でグラグラに会い、すぐにあかちゃんを抱きかかえ外に飛び出した」「被害はなかった」の報告を得ました。余震の心配があったので開始を5分遅らせ様子を見ました。

その間に再度地震があった場合の避難の仕方や津波避難指示が出た場合、近くの避難場所に誘導することを伝えました。その後、参加者に了承を得てセッションを予定通り開始しました。参加者の安心・安全を最優先に考え余震発生を意識して最初は進行できていたのですが、途中から「もう大丈夫だろう」の楽観もあり、進行の事ばかり考え地震のことは吹っ飛んでしまっていました。その後、余震もなく、無事に最終セッションを終えることができましたが、反省点と今後の課題が明確になったように思います。

開始前の地震発生時、主催責任者・保育者・ファシリテーターで具体的に避難の仕方を確認すべきであったと反省しています。今後、BP2実施時の避難マニュアルを作成し、プログラム実施前には、マニュアルに基づき、実際に実施し、確認しておく必要があると痛感しました。現在、マニュアル作成中です。

参加後は前向きにトライ

今回、コロナ禍で実施しました。勇気をもって参加してくださったお母さんたちは、きょうだいが生まれて、赤ちゃんと幼児期の上の子の育児はただでさえ大変なのに、コロナ禍で人との出会いや関わりが減ってしまい、上の子の関わり方がうまくいかず困っていること・悩んでいることを聞いてもらったり、相談することができず、お困り事を抱え、悩み、自分を責めていました。そのお母さんたちが、BP2プログラムに参加され、ピア・レビューできる仲間ができ、不安・孤立感・悩み・ストレスが軽減し、大変だけれども子育てに前向きにトライされています。コロナ禍の今だからこそ実施できて本当によかったと心から思いました。

今後に向けて

現在海陽町、近隣3町にBP1・BP2認定ファシリテーターが私しかいません。ファシリテーターの定年は70歳です。後、数年しかありません。その間にファシリテーターを増やさなければなりません。今、意識的に「海陽町地域子育て支援センターあかね」のスタッフに働きかけています。BP1・BP2プログラム実施時のアシスタントに入ってほしいBPプログラムを体験してもらっています。定年までに若いスタッフにファシリテーターを引き継ぎ、海陽町のすべてのお母さんたちにBP1・BP2プログラムを届けてもらいたいと心から願っています。

今後、BP1・BP2プログラムを「海陽町子育て支援センターあかね」が継続実施していきます。予算もつきます。後は、ファシリテーターを増やすだけです。